不二聖心女子学院
中学校・高等学校

回勅「兄弟の皆さん」を読む

宗教の授業の中での教皇文書を読む取り組み

実施の目的・背景

- 高１の宗教の授業の学年テーマとして「キリストの価値観に基づく共同体づくりを目指す」(中３～高１)その中で、「世界と自分」となり、社会性を育てる目標として「共に痛む・かかわる・地球共同体」が掲げられている。自分たちの生活における課題に向かいながら教皇文書の『回勅　兄弟の皆さん』を読むことを通して共通善を理解し、これからの生き方を考える機会とする。
- 教育理念の中の「世界の一員としての連帯感と使命感を持ってより良い社会を築くことに貢献する賢明な女性」を意識した学びをしていく。

■概要

学年・科目：高I　宗教

実施内容：

- 『回勅兄弟の皆さん』の読書会を通して、四旬節に向けての自分たちの課題を探り、日々の目標を掲げる四旬節カレンダーを作成する。

プロファイル：

- 魂を育てる
- キリスト教的価値観でものごとを見つめ考えようとしています。

授業の内容

冬休み：

『回勅兄弟の皆さん』を各自で読む。冬休み前に『回勅兄弟の皆さん』の概要と回勅の出た背景を伝える。（全文を読めない生徒は、イエズス会の出している動画を見て、自分の担当する章は必ず読むようにする。）

第1回：

①沈黙の時間

②冬休み前の聖書の学びの復習

③四旬節の過ごし方についての説明・『回勅兄弟の皆さん』の目的（善いサマリア人のたとえなどについて）

④同じ章の担当者ごとに集まって要点やキーワードについて話し合う。

第２回：

①寛容な社会について考える動画の視聴

②前時（章ごとのグループワーク）を思い出し、
　本時すること（カレンダー作成で同じ日付を担当するグループで同じ段落群のペアワーク）
　を説明する

③ペアワーク段落の要旨をまとめる

・四旬節の過ごし方において自分たちの日頃の課題を分かち合う。

第３回：

　日付ごとのペアワーク前時話し合ったことをもとに、カレンダーの文案を考える。
　全体での分かち合い
　（第４回目）に向けてスライドを作成する

第４回・第５回：

日付ごとのペアで、
(1)段落の要旨
(2)四旬節に向けての自分たちの課題
(3)カレンダーの文案（3つ）
を発表

聞いている生徒たちは文案から1つふさわしいものを選択してフォームで回答する。

カレンダーの配付（灰の水曜日に授業がなかったのでHRで配付）宗教朝礼で全校生徒に紹介

第6回：
ふりかえり

2023年四旬節
兄弟姉妹の皆さんカレンダー

2023年四旬節・兄弟姉妹の皆さんカレンダー

参考：教皇フランシスコ『回勅 兄弟の皆さん』

※FT●●は『回勅 兄弟の皆さん』の段落番号です。

日	月	火	水	木	金	土
			2月22日	2月23日	2月24日	2月25日
			神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまる。	私たちは一人では生きられません。支えてくれるすべての人たちに感謝しよう。	連帯と、思いやりの姿勢、良いサマリア人の寄り添いの姿勢で、男女、子供、お年寄り一人ひとりの持つ脆弱性に心を配ろう。	一人ひとりを、唯一無二のかけがえのない人として大切にしよう。
			灰の水曜日 FT 4	FT 51-55	FT 77-79	FT 95-100
2月26日	2月27日	2月28日	3月1日	3月2日	3月3日	3月4日
神よ、わたしのうちに清い心を造り、 あなたのいぶきでわたしを強め、新たにしてください。	「難民」に対する理解を深め、今自分にできることを考えよう。	自分の隣人のために心から祈り、相手を受け入れ、生き生きとした未来に向かって歩もう。	会って助け合うには対話が必要。目を向け、耳を傾け、互いを知り、互いを理解しようとすること、接点を探すことを心にとめて対話しよう。	愚直だといわれようとも動じることなく平和を選んで行動しよう。	兄弟姉妹である喜びをもって異なる文化や宗教などの違いを受け入れよう。	あらゆる形態の浪費に鈍感にならず周りに目を向けて生活できますように.
四旬節第1主日	FT 129-131	FT 155-162	FT 198-210	FT 255-262	FT 271-280	FT 15-28
3月5日	3月6日	3月7日	3月8日	3月9日	3月10日	3月11日
神のことばはただしく、 そのわざにはいつわりがない。 神は正義と公平を愛し、 いつくしみは地に満ちている。	自分自身が助けを必要としている人の存在に気づいて、その人の「隣人」になろう。	閉ざされた個人主義ではなく、開かれた心で真の兄弟愛を培おう。	さもしい自分の利益の内に閉じこもろうとする人間が持つ利己的な傾向を変えていくために、人の心、習慣、生活様式を変える必要性に気づこう。	真の和解のため、対立から逃げずにオープンかつ真摯に、そして辛抱強く話し合おう。	ネット上の関係作りに夢中になり、兄弟愛の味わいを失いつつあるこのパンデミック。私たちの存在の意味を見つめ直してみよう。	東日本大震災の被災者のために祈ろう。そしてもし被災地から避難してきた人たちが身近にいたら親切に迎えよう。互いに橋を架ける愛を心に留めて!
四旬節第2主日	FT 80-83	FT 101-105	FT 163-169	FT 236-245	FT 29-41	FT 56-62
3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日
主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。	すべての人が尊厳をもち、生きる権利に国境や境界線はないことを心に留めよう。	他の民の悲劇に連帯することでグローバルに対する真摯で友好的な開放性を心に持とう。	地球はあらゆる世代に貸し付けられているもの。次の世代のためにも地球環境を見直し、地球温暖化や環境破壊のために具体的な対策に取り組もう。	周囲の人々に注意を向けて微笑みかけよう!	より正義にかない、いっそう兄弟愛にあふれる将来を築くため、広島・長崎への原子爆弾をはじめとした悲しい歴史を思い起こそう。	誰かの心の支えになるために、身を砕くほどに惜しみなく自己を差し出せる平和の職人になろう.
四旬節第3主日	FT 118-127	FT 146-153	FT 170-179	FT 211-224	FT 246-254	FT 281-284

日	月	火	水	木	金	土
3月19日	3月20日	3月21日	3月22日	3月23日	3月24日	3月25日
わたしがこの世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる。	「喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい」（ローマ 12・15）を胸に、様々な苦境に置かれた人々を思い、祈ろう。	今自分にとって大切な人との関係だけで生きているのではないことを思い起こし、もっと他者との交わりを持てるよう心を開こう。	人は皆、民（たみ）に属することで十全に一人の人間になる。だから愛の気持ちを持って社会に生きることを心に留めよう。	命の大切さをもう一度しっかり考えよう。そして一人ひとりが死刑制度に関心を持って死刑囚の人権や尊厳が守られるように祈ろう。	アッシジの聖フランシスコが、貧しい人々や病者の声を聴き、そして自然の声を聴いて、それを自分の生き方としたその種を、私たちの心の中で育てよう。	差別されている人がいたら、見て見ぬふりをしないで立ち向かおう。
四旬節第4主日	FT 84-86	FT 87−94	FT 180−185	FT 260−270	FT 42−50	FT 72−76
3月26日	3月27日	3月28日	3月29日	3月30日	3月31日	4月1日
わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。	その人の存在という価値に根拠があるのだから、お互いを尊重し大切にしよう。	だれも排除しない社会的友愛とすべての人に開かれた普遍的兄弟愛を忘れず生活しよう。	いちばんの弱者に対する優先的な愛がある政治！それが行われるように社会をつくろう。	違う文化の人を認めて、その人がその人らしく生きられるよう互いに助け合うこと。例えば先住民族の人々の文化を理解して共に生きることを意識しよう。	苦手な相手こそ、その人のよいところを見つけよう。それだけでなく、そのよいところを引き立てるのが使命。それを果たしてこそ真の平和が私たちに実現する。	一番の弱者である人と完全に同一になることですべての人と兄弟になった聖シャルル・ド・フーコーのように兄弟愛を持って人に接しよう。
四旬節第5主日	FT 106-111	FT 142-145	FT 186-192	FT 215−221	FT 228-232	FT 285-287
4月2日	4月3日	4月4日	4月5日	4月6日	4月7日	4月8日
主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え 疲れた人を励ますように言葉を呼び覚ましてくださる。	「人間の苦しみに、動転するほど心乱されるべきなのです。それが尊厳なのです。」隣人と痛みを分かち合おう。	たとえ自分のところに水が存分にあっても、とも暮らす家（地球）の兄弟が困難の中にあるならば、自分の欲を抑えて、水を大切にし、分かち合おう。	異なる生活・文化の背景をもつ多様な人々の到来は、贈り物。根気強く、信頼に満ちた 対話をしていこう。	たった一人のためにも愛の献身をささげよう。	十字架の前で普遍の母性を授かったマリア様は、現代を生きる私たちが社会から見捨てられた人にも居場所のある新しい世界を生み出すことを望んでいる。そのことを思い起こそう。	歩む道としては対話の文化を、行動としては協働を、方法・基準としては相互認識を！
四旬節受難の主日	FT 63−71	FT 112−117	FT 133-141	FT 193−197	FT 278	FT 285
4月9日						
きょうこそ神が造られた日、喜び歌え、この日をともに。						
復活の主日						

不二聖心女子学院高等学校 1年生（2022年度）作成

生徒の感想より

②『2023年四旬節兄弟姉妹カレンダー』の作成を振り返って

(1)『回勅　兄弟の皆さん』（元の本）のグループ・ペアワークでの読書会を振り返って

やって良かったこと

どの言葉も心に残り、読んでいくと自分を勇気づけるような言葉ばかりで、すごく元気やパワーをもらった。また、初めて考える事柄や内容もあったので、新たな一面の社会を知ることができた。これからも常に社会問題に面を向けて生活していこうと思う。

難しかったこと

私自身、ごいかがないので、表現の難しいところがあると、まずその単語を調べるところから始まるので、大変だった。また読解力なども必要なので、何度か読み直す必要もあった。

(2)カレンダーをどのように生かしますか？

毎日の生活の糧として使う。学校に行くのが嫌な日などにそのカレンダーを見直す

②『2023年四旬節兄弟姉妹カレンダー』の作成を振り返って

(1)『回勅　兄弟の皆さん』（元の本）のグループ・ペアワークでの読書会を振り返って

やって良かったこと

私の担当は死刑についてでした。私は自主研で犯罪事件についても取りあげたので人一倍日常生活で死刑や犯罪者について考えていました。この本を読んで世界が広がりました。過去のキリスト教徒たちが犯罪者の命の尊さを訴え、考えていると分かりました。犯罪者を差別し排斥しようとするような刑罰を与えるのではなく犯罪者の傷をいやすことに重点をおくという言動が素敵だなとかんめいを受けました。それぞれの担当章を共有することであらたな発見があり1人1人が成長出来たように思います。

難しかったこと

死刑についてキリスト教が明確に悪としていることは分かりましたが、犯罪者の傷をいやすことよりも、被害者や本人の傷をいやすことのほうが重要視するべきことなのかなと疑問に思う反面で被害者や本人の傷は見えやすくわざわざ会ったこともない人間が心配することではないのか、それよりも今を生きる犯罪者の傷をいやすこと、それについて議論することが被害者の方の傷をいやすことにつながるのか色々考え、難しかったです。

(2)カレンダーをどのように生かしますか？

家族に共有し、部屋に貼りました。自分の担当外の所も見てみたいと思い、本を購入しました。これから自分のかいしゃくでこの本を1から読みたいなと思っています。

私は人が読みとったことを自分の解釈にするのが特意ではないので、自分でもカレンダーを作成するのもいいなと思いました。

死刑について今一度考えて、高校でやりたいなと考えている自主研でもとりあつかいたいなと考えました。

②『2023年四旬節兄弟姉妹カレンダー』の作成を振り返って

(1)『回勅　兄弟の皆さん』（元の本）のグループ・ペアワークでの読書会を振り返って

やって良かったこと

現代社会について、夏休みの課題と引きつづき宗教、キリスト教と結びつけて考えることができ、あらためてキリスト教の教育の大切さを実感できたこと

難しかったこと

○文章が多い本であったため、読解に時間がかかったこと

○解釈が適当であるか

(2)カレンダーをどのように生かしますか？

毎日の朝礼・終礼時のお祈りとともにカレンダーの内容について祈りを捧げたり、1日の目標とできるようにしたりしたい。

②『2023年四旬節兄弟姉妹カレンダー』の作成を振り返って

(1)『回勅　兄弟の皆さん』（元の本）のグループ・ペアワークでの読書会を振り返って

やって良かったこと

今まで読んできた普通の本とは違い、キリスト教の考え方、目先で語られていて、読み取ることが大変でしたが、四旬節という初めてきいた言葉の意味を知り、自分たちができることとは何かを考える時間ができた。また、普段の日常生活で祈りの心を持ち、生活できたらいいなと感じることができました。

難しかったこと

相手の場所をよ読み、何を私たちに伝えたいのか考えることが難しかったです。

しかし、カレンダーの文章で、課題解決に向けた文章が書けてよかったです。

(2)カレンダーをどのように生かしますか？

四旬節の期間だけでなく、普段の生活でも意識できるものもあるので、それらを心がけて生活していけたらなと思います。また、家族にも見せてあげて、共有していきたいです。

②『2023年四旬節兄弟姉妹カレンダー』の作成を振り返って

(1)『回勅　兄弟の皆さん』（元の本）のグループ・ペアワークでの読書会を振り返って

やって良かったこと

カレンダーを作る目的で最初は取り組んでしまいましたが，本を読み進めていくうちに，今の世界の現状を知りながら，私たちが考えていくべき問題に気付くことができたのが良かったなと感じます。

難しかったこと

数々の問題があったので，3つの文に伝えたいことを全てまとめるのは大変でした。文章への理解

(2)カレンダーをどのように生かしますか？

四旬節の間にこのカレンダーを見て，今の世界について考えていかないといけない問題を振り返って，少しずつでも良い影響を与えられたらいいなと思いました。